

議 事 録

- 1 会議名 平成25年度第3回さぬき市総合計画審議会
- 2 日 時 平成25年12月26日(木) 13時30分～15時30分
- 3 場 所 さぬき市役所4階第2委員会室
- 4 出席者 【委員】岩田委員 楊盧木委員 金岡委員 工藤委員 多田委員(会長)
田村委員(副会長) 平野委員 満濃委員 吉田委員 頼富委員
【事務局】総務部政策課 向井課長、津村係長、外2名
【傍聴】0名
- 5 会議次第 1 開会
2 会長挨拶
3 議事
(1) 将来人口設定について
(2) 次期総合計画の基本理念及び将来像について
(3) 今後のスケジュールについて
4 その他
- 6 配布資料 資料1・さぬき市総合計画策定のための人口推計結果
資料2・アンケート調査結果報告書自由意見集(2種)
資料3・社会情勢等の比較表
資料4・アンケート調査結果報告書

7 議事の経過及び発言要旨

< 開 会 > (13 : 30)

事務局 ただいまから平成25年度第3回さぬき市総合計画協議会を開会する。
最初に会長から御挨拶いただき、引続き議事を進めて頂きたい。

会長 <挨拶>

それでは議事に入る。議題(1)の将来人口設定について、先般送っている資料のなかの12ページに推計の手法とか結果がいくつか出ている。事務局から、このことについてこの会の意見を聞いて最終案を決定したいとの申し出があったため、この審議会では4つの推定結果のなかからどれを採用し、目標人口を何人に決めるかという提言をまとめたいと思う。

この資料はテクニク的な要素が多いため、実際に作業をしていただいたコンサルタントから各パターンの違いと目標人口産出の根拠について説明をお願いしたい。

コンサルタント <説明>
ト

会長

推定値と目標値と二つ決めなければいけないのか。何か意見があれば。

私から言わせてもらうが、これは精度を求めるとか、きっちりした回答を出すということも一部にあるが、むしろ将来計画を担うということなので、むちゃくちゃな目標はいけないし、ある程度の根拠はあるが、前向きで頑張るんだという意思表示をす

ることが主旨ではなかろうかと。悲観論とか楽観論という立場でなく、将来こうするんだと、実現可能であろうと思われる程度のもを目標あるいは推定値にするというのが、繰り返しになるが本質的な意味だろうと思っている。かといって、あまり楽観論すぎるのもあれなので、頃合いのところを見極めたいところだ。

4つ、A、B、Cと人口問題研究所のものがあるが、最近の動向等を考えた上での提案が12ページ、Bと、人口問題研究所の推計、厳しめに出ているが、計算上そういう風になるということになるが、目標値は、色々改善策とか対策法をこれからうつので、そこまではいかないということで、きりのいい数字で目標値を出したと理解している。

委員 推計値はどういう風に言うのか。目標値はざっくり言うが、推計値というのは細かくか。

コンサルタント 推定値は見せ方だ。

委員 目標値から、1000人、800人くらいひいた値が推計値で、目標値がそれにプラスいくらか足した分くらいか。

コンサルタント その通り。

委員 図表でみると、一番いい数字が38年の4万4000。一番甘いというか、よくない数字だ。ただ、違っている・正しいとも言えない。自然増は別として、なるべく転入してください、なるべく出ないでくださいね、というのは頑張らざる得なくなる。いろんな環境整備によって転入する人も多くなる、出ていく人が少なることをめざしていくんだという形としては、これでないかなと思うが、Bとしては4万1000人だ。3000人近く多い。そんなことになるのかなと。喜ばしい、楽しい、嬉しいがないと、どんどんじりひんではやりがいがない。たぶんAパターンは、先ほどもあったが、最近の5年がガクッと減っている。今後増え方が、急激にニーズが多くなるというのは、一般性があるような支持を受けられない意見ではないかと。そういう意味では、Bのほうが、残念ながらリアリティが高いのではないかと思う。

アンケートをずっと見ていたら、さぬき市に住みたいとか環境が良いとかが多い。そうすると38年の4万5000人などの目標があったほうが良いのではないか。

委員 目標として掲げるのは良いが、この数字を何かに使うのか。数字を並べる意味がわからない。

委員 企業は何かを作ろうとか、対象人数はといったときに（将来人口予想）を使う。この人口、対象人数はこの流れで行くと、こういう類がある。

委員 でも、12年も先のことで、途中でこの予定の人数と乖離していくこともあるのでは。そういった場合は、というのものもあるし、決める意義というか。何となくはわかるが。

事務局 繰り返しになるかもしれないが、上の推計と言うのは、あくまで指標ということになる。このままいったら、こういう人口になると。下側は、人口が減っていくと消費も減る。いろんな意味で人が減ることによって地域の活力が低下する。一般的にいえ

ば人口は減らないほうが良い。そういった中で市の方では現時点においても、人口減少対策、定住促進、移住・交流の促進だとかに力を入れてやっていっているの、そういった部分に注力しながら、人口減少をできるだけなだらかにすることによって、市としての活力の維持を図っていききたいとか、そういった意味合いからの目標人口ということだ。この数字自体を使って、将来的な財政上の推計をすとか、なんとかいう目標人口を使ってそれをすというの、ひょっとしたらあるかもしれないが、現時点ではそういうことはやっていない。

委員 1年ごとに予算は決めている。

事務局 将来的な見通しはいるので、大方の流れとして、たとえば4万5000人と5万5000人では、税収とか地方交付税などで違いが出てくる。歳出においても違って来る。推定人口を使って何かのシミュレーションをしてどうこういような話を例えでしていても、実際に予算をつくる時には、今話されたように翌年度の予算ということになるので、これが違ったから、即何か大きな誤りが生じるということは決してない。どちらかという、こういう目標に向けて皆で頑張っていこうというのが、総合計画の趣旨なので、そういった意味合いでの数字ということ、理解いただきたい。

委員 若い世代、子どもの出生率も低くなっているし、データを見ていると10年というのは若い人たちがここから出ていかないで、ここに根付いてファミリーを増やして、というところに着眼していかないとけない。住んでいる人が減っているところにいるよりは活気があるまちに行ったほうが良いのかなと思うが、(45000人という)そういう数字を見ることで元気が出るかな、という気もする。

委員 10年前であれば、600人位さぬき市で子どもが生まれていた。去年は300を切って270数名になっている。10年で半分に。お年寄り、10年で10歳加齢する。亡くなった方もいる。出生より、亡くなった方の方が多い。

委員 これを見たら、高齢者が40パーセント近くになっていく。長生きする人は長生きするが、これからの人は長生きできないということもある。

委員 10年先、20年先に例えば5万人設定していたって、実際には4万人しかいませんでした、って…。

委員 津田は学校が合併したときに人口がグーッと減った。息子たちが「子どもがいないところに、なぜ帰るのか」と言う。学校が合併することによって若い人がよそに出てしまうというのがある。学校統合を進めているが厳しいのではないかと。

委員 ほっといたら人口減少になるのが間違いないので、この計画のなかで今からこういう風な目標値を掲げて、頑張りませんかと。

委員 いかにか社会的な減少を減らすかだ。

委員 できるだけ、とどめるという意味で…。

委員 何日か前の四国新聞で三豊市が定住促進の予算を補正して増やしたとか。

委員 うちは、40歳以下の人に補助が出るのでは。

委員 それはまた別で、三豊でいう定住奨励金はうちで言ったら固定資産税の半分を3年間補助するという定住奨励金になる。

委員 子育て支援だが、市の職員が高松市に住んでいる。親は県外。本人同士が高松市に来てさぬき市の職員になった。「早くさぬき市に引っ越してきまい」と言うが、「さぬき市では子育てできない。結局、熱を出したりしたとき頼める人がいない。高松はそのへんの保育所なり、施設が充実しているからみてくれる」と言う。さぬき市の福祉をしなればいけない。さぬき市にいないといけないと思うそうだが、夫からは、「(さぬき市に住んでいたら、働きながら)子育てできないだろう。どうするのか」となる。子育て支援のサービスの充実はすごく大きな問題。三木町は充実している。

会長 本題に戻るが、今日の議題ははじめをつけないといけないので、特に異論がなければ、推定値はリアリティ、目標値は、がんばりしょうを入れて、行政が言う線で行こうと思うが、よろしいか。

委員 <異議なし>

会長 続いて、次期総合計画の基本理念及び将来像に移る。このことに関しては事前配布された資料に基づき、何らかの案を考えて頂いていると思う。今日は審議会として、いくつかの案を事務局に提案したい。みなさまからの意見を頂く前に現在の基本理念や将来像について、基本方針を策定するにあたって平成15年以降に注目された社会情勢の変化や市の主要課題について整理したいので事務局に説明をお願いしたい。

事務局 <説明>

会長 細かな話は色々あると思うが主役は市民なので、さぬき市に住んでいる人としてどうかということ、自由に言ってほしい。

委員 不平不満でもないし、建設的でもないかもしれないが、平成12年にさぬき市に転入した。昭和62年より前から住んでいた勤務先の先輩の家を、その先輩が転勤する際に買い受け、平成12年から住み始めた。愛着心がない。さぬき市、志度に対する地域の歴史や文化も学んでいない。ただ、お寺が多いというのと、88カ所の上り3カ寺があるというのと志度寺には歩いて行ける、くらいか。それからお祭りがある。若者が祭りではドサーッと帰ってくる。若い人がたくさんいると思ったが、祭り以外では若者がいない。自由アンケートで市政にのぞむことやまちづくりに関することで、けっこういろんなことが書かれている。私がこちらに来て市の皆様とお付き合いできるようになったのが、さぬき市誕生10周年記念の委員になったことからだが、合併することによって、結果がどうなったかという部分はハッキリできていないと思う。そんなものがあって、今度の10年はこういうことをやっていく、ああいうことをやっていくからそうだよ、というのがあってもいいのでは。合併しない方が良かったんじゃないかという意見もあった。そこまで言われたら市として、あれだけ大騒ぎして、国から補助金がもらえとか、もらえないとか。ある意味立ち返って後ろを見るとということも必要ではないか。それがあってはじめて後の10年なり、が見えてくるのでは。やたらめったら、生徒が減ったからって学校を2校から1校にしてしまっただけ良かったのか。単に学校問題だけじゃなくて、今から立ち止まって、後ろをみて、前をみてどうするのかというところに視点をもっていったらという感じだ。今日の話で言えば、たくさんの議題があり、人口問題とキャッチフレーズまではできたが全体的な前回評価については目が届いていない気がする。やはりとどまって、企業だって、

自治体だって、計画を作ったらそれに対して実績はどうだったのかというのを見ていかなければならないのではないか。

委員

私は新町に住んでいる。この近くだ。高潮で、家の中で胸の高さくらいまで水が来た。その対策をしなければいけない。また来たらどうしようと、台風のたびにどうしようと思う。そんなところに住めない。だから私どもの地域の人を出て行って、空き家、空き地になっている。私は頑張って住んでいるが、それだったら、やはり老人ばかりになってしまう。若い人に対しては、学校に行っていたら、学童も小学3年生までしか見てくれないし、それも17時までだ。働いている人は17時までには迎えに行かなければいけない。子どもも産めない。そういうところは行政に頼まないと、と思う。高齢者はたくさんお金を持っている人が多い。今わりと高齢者は大切にされている環境。子どもを持っている若い人たちよりはお年寄りを大切にしている。もっと子ども、若い人たちに目を向けてあげたほうがいいのではないか。学校の統合も、遠いところまで通うのは大変。統合が全部良いとは思えない。人数が少なくてもその学校が存在するというだけで、そこに活気生まれるから、あまり遠いところにしてほしくないという気持ちがある。いろいろな施策をしっかりPRして、税金をもらって。高知県の町はそれをしていると聞いた。その代わり特産物を送るというので。さぬき市も特産物をどっさり送って、その代り税金をしっかりと納めてもらうふるさと納税を進めるのもいいのではないか、と思った。

委員

児童クラブの時間とか細かいところで、18時半くらいまでやるというところもある。18時までのところが30分延びただけでも家の人は安心で、児童クラブを使ったりする方もいる。その人が使って、家の人が見てくれて、そこにお父様、お母様が迎えに来る方法で利用されている方もいる。いろんな施設や制度があるが、その情報を知らないという意味がない。それを伝える係として身近な民生委員がいるのかなと思う。民生委員もたくさんの世帯を担当しているが、迷惑がられる場合もあつたりで、「困っているんです」と声がかかれば行きやすい。

委員

行きやすいのではない。民生委員は要望がないことに関してはしなくて良いという話だ。「困っている」となれば対応するが、「本当に困っていないですか」と聞く必要はない。

会長

どういうまちになってほしいか。

委員

今の子育て世代から言うと、子育てしているとか生まれると嬉しいとかあるが、それって、子どもにかえってくることなので、そういうことでなく、自分のことは自分でできるようになれたらいいと思っている。隣の、助けてあげられるところは助けてあげながら地域の中で生活して行って、全体のなかで、さぬき市はこうなっていこうというのがあれば、その部分に向かって、みんなが意見を合わせられるように。

委員

自分も同じようにさぬき市に来て2年目で、会に参加させてもらっている。浸水するとかいう話を聞きながら、そういう地域もあるだなと、皆の話にもものすごく興味を持ちながら、実際に住んでいる人たちはどのような感じでさぬき市を見ているのかという違う観点から話を聞かせてもらっているが、10年後のさぬき市のIT、ケーブルネットが4月から地域的にブロードバンドが広がっていくので、高齢者にもそういうのに参加してもらい、ひとりで住んでいる人にテレビカメラで会話の相手をするとか、高齢者でも元気で長く生きてもらう、とにかく楽しみを持たせてあげるというのが、元気が出るということにつながる。せつかくブロードバンドが広がっていくので、

パソコンが使える教室など、とにかくつながりを持ちながら広げていって、その中で徳島の葉っぱビジネスのように活性化につなげる。この間、旧多和小学校に行かせてもらい、その中に市のイベントでゴマ山の88カ所巡りというのがあったので、初めてミニ88カ所巡りに参加させてもらった。2年後にはここにたくさん人が来るのかと想像して、また、その地区の人たちが野菜を売っていた。売っている人たちを見たときに、ものすごく高齢者だった。まず、都会では見ることがないのでとっても興味を持ちながら見させてもらった。そうすると、すごく大事に並べていた。買ってもらえればお金が入る。野菜がお金に変わる、元気が出る、いきいきしているというのを目のあたりにしたときに、いいものを見させてもらったと思った。きっと、さぬき市にも元気になるものがいっぱい落ちているんじゃないか、見逃しているんじゃないかと思って帰ってきた。ちょっとしたことでも、未来に光があたったりする感じに広がっていったら活気あるまちづくりになって、その中で人と人とのふれあいが広がっていったら活性化にもつながっていくのではと感じた。とにかく、小さいけどひとつから、そういう感じで広がっていったらいいなと思った。

委員

私は、市民が自立できるようになってもらいたい。なんでもそうだが言われたからするのではなく、今、松尾小学校でサポーターをしているが、前校長の時に「絶対に子どもの先を走らないでください。あとからついてきてください。サポーターの方は。何かあれば注意だけするように。」と言われた。横断歩道ではかけ出して渡らないほうが良いので止める、ということではなくて、子どもが信号をみて渡りかける。黄色の点滅になった、さあ、止まるか、行くか。この判断は子どもたちに任せて、なおかつ、ダメだなと思った時は止めるというのがサポーター。緑のおばさんやおじさんじゃないが、早く横断歩道を渡ってくださいね、とピーツと笛吹いて渡って、そしたら、子どもは言われる通りにしたらいいと覚える。しかし、自分が大人になって信号を渡りましようとなったときに渡らせてくれる人はいない。それでがーっと走って横断歩道ではねられるとか。やはり自分のことは自分でできる、自立できることをまず考えなければ。その自立ができないのならどうするのかということも次に考えていったほうが良いのではないか。松尾小学校の場合は、もういっぺん考えてくださいと言え。横断歩道の渡り方とか、学校から帰る方法を自分で判断してもらうのだ。そしたら、私の言うことを聞くのか、学校まで帰ってもういっぺんくるのかという判断をさせる。子どもは、(私の)言うこと聞きますということで、次の時からは必ず守ってくれる。学校に帰ると校長が待っていて、子どもは、学校へまた戻ってきた理由を校長先生に説明しなければいけない。サポーターが言うことと、自分の行動を説明しながら、自分自身が間違っていましたと気づかせるようにする。気づいて子どもは初めて変わるのかもしれない。だからサポーターは言うことを聞かせようといった指導はしない。だからやっぱり自立できる市民になってほしい。お年寄りも含めて。

委員

津田地区だが、私は室津生まれで、4カ月ほど大阪に仕事の関係でいた経験がある。まだ志度の場合は大学があるので若い人が多いが、津田なんかは活気がない。お年寄りが訪問するギャラリーなんかもあるが、行政のほうも縦割りで色々理由があると思うが、若い人が子育てできる環境を優先しないと。津田にしても、鶴羽小学校、廃校。中学校についてもあと1年ちょっと。恐らく、来年くらいから幼稚園、保育所が合併。今の中学校の跡地で全体に合併しようというので、支所の方に話はしたが、確かに環境が悪くなってきて、それに見合う意味で保育所の充実が必要だと思う。民間だけでは大変だと思うので、もう一度もっと色々市長には難しいとは思いますが考えてもらいたい。それから、働くということでいえば、通勤は1時間程度が限界だろう。恐らく、高松からは、津田あたりがその限界。志度近辺とか、その近辺で若い人が来ることにこしたことはないが、企業誘致は大変だ。水の便はあまりいいこともない

思うし。あまり水もいらん、小さい敷地できてくれる企業はあるのか。市も財政的に大変だと思っはいるが、そのあたり三木町はなんやかんや言っても頑張っていると思う。それともう一つ、自治会。一年を単位に役員が変わる。自治会長が事務的にやっている。今の、恐らく3分の1くらいが1年くらいに変わる。

委員 長くやっている人もいるのでは。

委員 志度は長い。

委員 長尾は毎年変わる。

委員 津田は38自治会で旧津田は19あるが、やはり4分の1くらいは変わる。話は余談になるが、映画。自治会長に全然発言力がない。やっぱり、3年とか5年とかして全体がわかるようになって「あの人が言うことなら…」というようなのではない。県のほうも、昨年からなんかしなければいけないと話がある。各自治会館があるが、これが大変大事だと。若い人は、自治会館はいらんと言いが、身近に集まって、何かできる。

委員 さぬき市において農業、水産業の話をしたい。ちょうど私も平成19年に会社を退職した。隣近所の子どもさんがどこの子やと言わないとわからない時代に入っている。これではいかんなどというのがなぜかという、ちょうど私が若い時代の時、親父さんが昭和48年に、地域で話し合って県とかからいろんな補助金をもらい、昭和48年に基盤整備した。そのときは、8000万円くらい使って、山を崩し、山、果樹園、畑、水田と一緒にスプリンクラーを設置して構造改善した。僕が退職した頃、担い手がない家庭がポツポツ出っていた。1軒か2軒くらい。自治会は38戸くらいあって、今もあるが、そのなかで、この子はどこの子と言わないとわからない。私たちの子どもときは近所づきあいもあって、手伝いだったり、呼ばれていたり、それが薄れている。それから、構造改善してこれから農業をやっていかなければならぬ農地がある。親父たちがよくお金を入ってこしらえたのに、そういう農地がもういかな、というので、平成19年に農林組合法人というのを普及センター、農協、市に頼んで作った。そういったなかで、農業は大事だと、これは何とかしなければならぬとアンケートをとって、300戸のなかでだいたい75%が5年、10年先にそこへ入らなければいけないという結果だった。実質やってきたのが17年、平成19年の6月に「これだったらできる」というのでやろうと。今年で7年目に入る。その当時、いろんな補助金制度があっただけで頂いてやっていった。その中で今、80%が退職者と。平均年齢でいうと68歳だ。そういった中で、初めは6町、今は10町にのっただけだ。自治会のなかで、息子もしないし、機械を買うのにもお金がかかる、それだったら工事費もあるし、作ってくれという田んぼが出てきたからだ。作業は、補助金を使ってトラック、トラクター、コンバインでもキャビン付きの大きな機械を導入してやっっている。ただその中で、今も言うように若い人がまだ勤めているので68歳の平均年齢。担い手づくりのことを考えると、まずはそれらをみんなが使わないといけぬと思っ、レンゲを植えてみた。幼稚園や保育所や地域にも声をかけ、婦人会とかもバザーをしたり。それから文化ゾーンとっって、田んぼのなかにテントを張って、舞台をこしらえたり。そんなんでやっったのが19年から。今年で6回終わって、7回目だ。だんだんなじんできたから貢献できているのか。それから、これだけ農業、T P Pなど問題があり、自民党になって、農業やるんだったらいろんな補助金をつけぬと無理だ。もう一つは、これから人口が減る中で、おそらく自治会が固まったことをしぬと農業は衰退してしまっ。もう少し農業ができるような体制を組まぬと農業を守っていけ

ない。

漁業もそうだ。食の安全とか書いてあるが、付加価値を付けるということで、オリーブ牛というのが高松にある。今、オリーブはまちというのを冬場に販売している。農業は付加価値、何を付けるのかというと、やはり六次産業とって、加工しなければならない。収穫して加工して販売するという、相当なお金がかかる。今後、それを超えることをしていかなければならないが、要するにこしらえなければならない。せっかとお金をかけて、先祖から継がれた農地を守っていかなければならないというのが我々法人の役目でもある。それが、さぬき市、東かがわ市も受け手がいない。農協が大川町なら大川町、津田町なら津田町というひとつの法人みたいな格をとった。これではいけないということで、今になり、各自治体分担に分けて法人化している。しかし高松から西はどんどん自治会の法人ができていく。余った土地は、あまりに法人化ができないのなら共同体制に。こういうのが絶対に必要ではないかと思う。

私はこれから先 10 年のことを考えたら農業をこのまま放っておいたらいけない。本当に草ボーボーで、さぬき市がどれだけ頑張っても人口増やさないかとか言っても、農業が衰退したらさぬき市もやっていけないと思う。やはり、そこらへんの充実を、さぬき市も 5 年先、10 年先のことを考えてもらいたい。漁業もそうだ。後継者がいない。漁業と農業というのは恐らく私は代替わりがいないと思う。息子が退職しても親父が中心ではなく、退職したらあとは継いでと短い時間でもそういうので守っていけるようなさぬき市にしてもらいたい。5 年、10 年経ったら漁業、農業はつぶれる。一番大変だと思うが、それを何とか、共同体でも、会社でも、個人でも、漁業なり、農業なりを守っていかないと。いろんな政策を立てても農業がつぶれたのではよくない。そこを今後、さぬき市として考えてもらいたい。

委員 今、平均 68 歳とおっしゃったが、そこまで待たないで、今、30 歳でも 25 歳で、職がなくて何もしていないという人がたくさんいる。地域就農で。そういう人たちはすぐ来て、すぐ使うというのは無理だが、農業の仕事はできるものか。

委員 今、若い人にすすめているのが大型特殊の免許の取得だ。オペレーターとって、大きな機械を動かす必要があるから、そこに就けるように。若い者は早い。うちの法人では、今、勤め人の若い者に、土日を利用して、特殊免許の大型を取りに行かせている。自動車学校に 3 日か 4 日行けば大型特殊をとれる。市がある程度の、その教材費は補助してくれる。そうやって年に一人ずつなり、オペレーターを育てている。そうになったら、ただの年寄りばかりの法人ではなくなる。その費用は市が助成してくれたうえに、法人も出しているの若い人はとりやすい。それで 3 人くらいとっている。そういうやり方をしている。

委員 今でも相当田んぼは荒れている。

委員 猪と猿だ。

委員 鳥獣害防御をやって。やはりそういうようなところが大きな問題になるかと。

委員 子どもたちが農業体験はできるのか。

委員 やっている。幼稚園などにも行っている。この間さぬき南中学校で、2 年生だったか、我々が苗を提供した。農業学校の先生の技術者にも来てもらったり。幼稚園だったらイモさし、玉ねぎ、じゃがいも。松尾と富田でいっしょになってイモ焼きのようなこともしている。

- 委員 それは固定でなく、全部のさぬき市の小中学校に声をかけてやればいい。
- 委員 高校になったら、人数が多過ぎて出来ない。田んぼが小さい、少ない、人数が多い。小中だったら、ちょうど適当な面積、適当な人数になる。もちろん、もち米は田植えから。苗は親とか地域の人が植えるんやけど。それから刈取り、脱穀、乾燥して最後に餅をついて地域の人にまた配るところまで4年生、5年生をメインに全校生で「今日は1年生で草抜きや」と言って短パンとかになって田んぼに入って草を抜く。
- 委員 私は将来像を考えたときに、自分が思うのは、このさぬき市で自分の子どもあるいは孫たちが笑顔で幸せに暮らしてほしいという将来像を思い浮かべる。自分たちの役割は今の自然環境、文化、そういうのを次の子どもたちのほうに譲り渡す責任があるのではと思う。あと怖いのは南海トラフ地震の起きる確率がすごく高くなったということ。地域的に真っ赤になっている。最悪、さぬき市がなくなるかもしれない。なくならないようにするために、なんとか防災、安全にも気を付けて頂きたい。産業、定住、環境、健康、こういったことがキーワードになって、その基本理念は「こうありたい」。それをするためのキーワードはたくさんのいろんなきれいごととか、こういうことをやったらいいんじゃないかという施策があるといったことで、いいんじゃないかと思う。
- インターネットでもスレッドとかアンケートも見させてもらったが、わかりやすいといったものが一番いい。良かったと思ったのは「市民の力で未来をひらく希望のまち」というのが小田原市のプランで、総合計画だが、あくまでも挑戦、目標だということがあるので、そういったようにするとか、幸せを実感でき、笑顔輝くあったかいまちへ、とか、漠然とはしているが、漠然としたものを実行するためにいろんな対策がある、施策がある、ということで今皆さんからご意見いただいたものを具現化するようなことを並べていくことがいいのではないかと思う。
- 委員 私もアンケートを見たら、いま回収率が40%程度で年齢層は60代、70代とかが半分くらいで、内容を見てもやっぱり今のままのさぬき市の自然で、安心で、安全なまちでこのまま住みたいというのが大半だったと思う。自分のことを考えてみて、さぬき市で育ち、仕事場は高松であったが、定年後は今のままだと死ぬまでここで生きたい。ぼけていなければ、さぬき市で住めて良かったなと思って、最後は死にたい。それが理想だが、そういうのを考えると、今までに企業誘致とかあるが、特にさぬき市に企業を誘致し持ってきても良いが、それよりも子育てをしっかりと頂いて、定年後はさぬき市で、安全なまちで、みんなで仲良く、そういうまちでお年寄りに優しく、また、子育てもしやすいというのが一番、自分の中では掲げる目標というか理想である。
- 委員 だからどっちかと言えば、さぬき市はベッドタウンとして良いと思う。そうすれば第一次産業もお手伝いをしながら、あるいは定年後もやっていけたりするので、子育てとお年寄りに優しいというのが一番理想かと思う。
- 会長 基本理念と将来像とあるが、いきなり文章にするのもあれだが、今聞いたなかでキーワードというか、けっこう重要なヒントになるんじゃないかと。まとめないといけないのだが、自然、安心、安全、それから、子育て、お年寄り、それと第一次産業で生活している方が多いので、そういう風な農業、漁業、林業などがあるが、ではそれをどうやって活性化するかとなると、各所で組織化とか、ネットワーク化とか、自治会の法人化などいろいろあるが、組み合わせるといっつかつなぐといっつかそういう風な手立てができるといいかもしれない。発展する会話はしづらいが、まずは現状維持を

すると何かのアイデアが出てきて、ブランド化、付加価値化につながるかもしれない。先にブランド化、付加価値化があって、というのもあるかもしれないが、土台がしっかりしていると何か生まれるはずだ。

もう一つちょっと思ったのはせつかくあるものを次世代につないでいく、遺産というか、良いものを引き継いでいくという風なものネットワーク化になるかもしれない。そのこともけっこう重要なキーワードかと。ものすごくざっくりした話だが。

あと何か意見は一。私個人的には、ものすごく短絡的に質問すると、さぬき市のシンボル、象徴は何か。お寺とか海、山とかきれいだか、キラッと輝くものは何か。合併してからどうなったかというのは一つあるかと思う。12年後に向かっての、過去のことをあんまり根掘り葉掘りではなく、未来のことを。キーワードをさっき申し上げたが、こういうことも重要ではないかというのが、一言、二言あれば。

委員 今話されたことにそう思ったこともあった。ベッドタウン化だ。さぬき市は徳島との県境でもある。さぬき市だったら東西に伸ばせばいい。ことでん長尾線はあるし、志度線はあるし、JRもある。ただ、JRも含めて時間がかかりすぎ。このあいだJRに乗ったら屋島で20分待った。あれでは乗れない。

委員 自分自身が横浜に帰るとき、今までずっと飛行機だった。それが、市の売りというか、一番便利だと思っているのは志度の高速バス停だ。志度はJR、ことでん、高速バスがあるので、都会に住んでいた自分からみても全然便利な場所である。それをもっともっとPRすることで、向こうから移ってくるんじゃないかと。ここらあたりの人たちは自分で運転するからかもしれないが、運転しない自分にとってはものすごい、すばらしい良いものがあるのに「ええ、そう？」と話すのがとってももったいない。交通便もものすごく便利だというのもうまく入れ込んで、アピールしていければいいかなと。自然もすごくキレイである。

委員 インターチェンジが多いから便利は便利だ。各町にあるようなもの。たいがい20キロくらい前後空いている。

委員 お宝が眠っているという感じも。いいものがたくさんある。

委員 それはまちに住んでいる人の話だ。過疎化が進んでいるところに住んでいる者はおじいちゃん、おばあちゃん、タクシーでしか病院に行けない。コミュニティバスも来てくれないような場所だから。

委員 そういう風に改修できる路線バスを。難しいかもしれないが。

委員 市のバスも同じところを循環している。田舎のほうへ行ってほしい。同じ時間に皆乗るからと依頼をしても行政は効率が悪いからと来てくれない。

委員 社会情勢の変化のなかで、よく感じるのが、独身男性が結婚しない人がすごく多くて。60歳代と両親であったり、そういう中で問題も多々ある。家事ができないなど。テレビでお見合い番組をよくやっている。そういうのも必要なのでは。若い人がここに来て、子どもを産んでくれて、とそういうのがないと。さぬき市よりずっと不便なところがテレビに出ている。それでも100人もお嫁さん候補が来て。

それと結婚して子どもを産んでくれることを期待する。そうすると先ほどの幼稚園の話も出てくるが、女性の負担がものすごく上がる。男女共同など色んなことが言われている。男の人も料理しなさい、など。最後には男性は仕事という逃げ場がある。

- 委員 ただ、家庭の事情もあるので、お父さんが幼稚園に迎えに行くということもある。
- 委員 最近は増えている。
- 委員 若い人は、男の人はけっこう動いている。
- 委員 引きこもりも多い。ものすごく多くて、引きこもりの人たちをどうするか。課題がものすごく多い。安心・安全な暮らしの危機ということでは、引きこもり、生活困窮者、認知症の増加。認知症の人もバリバリ車を運転している。個人情報なので名前は出せないが、鍵を隠しても見つけて、車で走っている。家族はあきらめている。
- 委員 絆もあるのだろうか。
- 委員 子どもが近くにいる、おじいちゃん、おばあちゃんの家があれば見てもらえるが、お金を払っても絶対に嫌だという人も多い。
- 委員 虐待防止の意味もある。
- 委員 絆とか心のつながりとか言いながら、それを切ってしまうような施策もしているようなことも。
- 委員 救済しなければいけないということだ。
- 委員 そこでお母さんの心が安らいで虐待がないというのがあればうまくいくときがあるかもしれない。
- 委員 だけど、気遣いは、まずは親子だと思う。
- 委員 どこの田舎もそうだと思うが、市民がやらなければならないが、やり方、やる組織とか、そのやる環境がないというか。頑張っカリスマ的な人がNPOを立ち上げるのもいいが、なかなかそういうのは難しい。NPOを立ち上げる人を雇ったらいい、教育すればいいということでもない。出てくるような場を、先ほど自治会も崩壊したとか話があったが、力強さをもう一度とどめるというか、復帰できるというような、私もわからないが、そういうのがあれば。
- 委員 法人を立ち上げて17人で活動している。そうすると、いろんな情報が入ってくる。もし活動しなかったら、もうその人たちと会話することは全然ない。自治会で何回か寄ることがあるかはわからないが、老後は、作業しながらならコミュニケーションが取れる。それがなかったらそんな会話の場に出てくることは少ない。
- 委員 改まって会をしますといっても、いい意見は出ない。
- 委員 そう、出ない。
- 委員 PTA活動だってそう。PTA活動の中でちょっとした会で話をするのがすごく大事だろうと。それでまずつながって地域の活動にもなる。
- 委員 そういう情報交換ができるような仕掛けとかバランスが必要なところだと思う。そ

ういうところがポイントと。さぬき市みんながそうでないかと。聞いたところでは、幼稚園とか保育園のときに公園デビューをする。まさにそれがそんな気がする。公園があって、行けば、そばにおばあさんが来て。

委員 アンケートにも書かれていたが、さぬき市には公園がすごく少なくて、デビューするとかではない。

委員 例が悪かったかもしれないが、非サポート的なサポートというようなものをもう少し、我々も提案しなければならないし、県・市なり行政も全部できないが、そういうようなものを…。その組み合わせ方、誰がどう組み合わせるとかいう、そういうようなものが難しい状況だ。昔はそれが自然とできていたと思う。今は人がいないというか、義務でやっているとか、そうなってしまったので、もう一回そういうのができないかというか、やったほうが良いなと思う。

委員 それは会話の場づくり、地域の再構築というか。

委員 ただ目線が上になると続かないし。

委員 家族機能が崩壊している。ここにもあったが「さぬき市みな家族」というのがある。高知県の知事が「県民みな家族」と言っている。なんかこう、家族機能が弱体化しているので地域が強くならなければいけないと思う。

委員 私の方では、お祭りがすごくあり、ちょうさや獅子の練習をするときとか、祭りの前に10日はお酒を飲んだり、たばこを吸ったりしていたのが、この頃は子どもをしつけるといふ感じになって、そこでもしないという感じ。練習しているところに子どもが見に来る。見に行ったらちゃんとした人がいて、「それはいかん」とか、しつけをしてくれている。当日になると県外からいっぱい帰ってくる。「こんなに若い人がいたのか」と思う。その人たちが集まって夜はいろんな話をしているが、そこで良いコミュニケーションができていようだ。母たちは女子会を作ろうということで、時々集まって情報交換している。そういう一つの何かがあったら、それがきちんとした市の人がいれば良くなるんじゃないかと。

委員 お祭りは志度は確かに盛んだが、津田地区は神輿も地域が合併してかつがなければならぬ。20人くらいも寄らん。

委員 志度は、お昼は60歳になった人がかつぐ、夜は40歳になった人がかつぐとずっと決まっている。ちょうさは誰でも良いのだが。

委員 それは一緒にかつぐ人がいなくて作り出したのだろう。その知恵を絞りだした人は素晴らしいと思った。

委員 そういう意味では新町は会館を新しく作り替えた。その当時はいらぬと言った人もいたというが、各家々に負担金をお願いして、そこそこ出せる人も出せない人もいたと思うがみんな。市の補助ももちろんあったが。あれが出来てから、「打ち合わせしよう」「集まろう」というのができてきた。

委員 津田の駅前には40年くらい前に200万円くらいで神輿とはっぴをこしらえた。約20年間御蔵入りだったと。私もあと1、2年で自治会長をやめると思う。これが最後だ

というんで、初めて寄付した。それも作戦で「寄付するから反対の人は手を挙げてくれ」と。誰も手を挙げない。やっこの間 10 月のお祭りに間に合うように寄付。立派な神輿である。

委員 喜ぶでしょう。する人も。

委員 子どものグループもある。新町部落という神輿をずっと出してこれというこで。

委員 まちおこしといっても大変だ。

会長 そろそろ時間だ。最後に「ぜひこれだけは」という、理念とか将来像で、何かないか。

委員 アンケートで「若者が元気なまちづくり」とある。そういうのは良い。

委員 さぬき市での「特産物」を作って、売り出してPRする。牡蠣、自然薯とか。さぬき市でないと、強烈な何かがないかと思う。

委員 自然薯も若い人が作っている。

委員 夢と希望だが。自然薯は特殊…

委員 注文がどんどん来たら生産力も伸びるのでは。

委員 前は売っても残っていたが今は予約制。

委員 今年が残っている。

委員 「さぬき市はあんなものがある」と言えたらいい。

会長 どうまとめたらよいか。

事務局 色んなキーワードが出ていた。皆さんの意見を聞いていたら、次の世代につないでいく、横につないでいく、それで笑顔を増やしていく、みたいなイメージなのかなとふと思った。

会長 勉強になった。理念の方は手法を書かなければいけない。ビジョンのキーワードは出たのではないか。事務局でまとめてほしい。今後のスケジュールの説明をお願いしたい。

事務局 貴重な意見をたくさん頂いたので、基礎資料をもう一度精査し、来年2月くらいには第4回目の審議会を開かせてもらい、そこで素案を出したい。庁内会議を挟み、今年度中に構想の案を仕上げていく。そして来年度に基本計画の方に続けていく形で進めていきたいと考えている。

会長 本日はこれにて終了する。

< 閉 会 > (15 : 30)